

授業科目名	【Gカリキュラム】 - 【EFカリキュラム】 経営管理Ⅱ	その他参照	開講年次	【G】 - 【EF】 2	単位数	【G】 - 【EF】 2
科目区分	専門科目：【G】教科及び教科の指導法に関する科目（-・-・-・-・-） / 【EF】教科及び教科の指導法に関する科目（-・-・-・-・-）					
担当形態	単独	【G】教員の免許状取得のための（-・-・-・-・-）科目 【EF】教員の免許状取得のための（-・-・-・-・-）科目				
施行規則に定める科目区分又は事項等						
サブタイトル	どうしたら人を動かせるのか			担当者	野呂 一郎	
授業概要	<p>【概要】 人的資源管理論をやる。人的資源というネーミングは、人材こそ組織の最大の資産であるという、現代経営管理の認識がそこにある。経営管理とは、とどのつまり、従業員をどう動かすか、だ。しかし、現代人はそう簡単に動いてくれない。ありとあらゆることをして、社員のモチベーションを高める努力をしない企業は、淘汰される。人を動かす企業でありたいなら、従業員が誇りを持ち、信頼できる企業であることも重要だ。どんな給与体系、働き方、働く環境を整えれば、人は動くのか。それを徹底的に追及する。日本とアメリカの比較を行うことで、グローバルに人的資源管理をとらえるのが、本講義の特徴だ。</p> <p>【到達目標】 細かい知識より、どうしたら企業は人を動かせるのか、という自分なりの理解を得ること</p>					
履修条件	企業のカナメ「人事」を知りたい学生、「面接」に勝ちたい学生はとって欲しい。就活対策は本講義の趣旨に合うので毎回行う。					
教科書・参考書	<p>【教科書】 「産業心理と経営学」北大路書房 野呂ほか著</p> <p>【参考書】 「ナウエコノミー -新・グローバル経済とは何か-」学文社 野呂一郎著</p>					
授業回数	授業内容					
1	ガイダンスー本講義のすすめ方ー		予習：予習：教科書まえがき、目次、63頁を読んでくる			
			復習：現在の企業の在り方と講義の内容を対比する			
2	企業を取り巻く現代の環境とは何か		予習：教科書63~65頁/予告企業事例を考える（計120分程度）			
			復習：学説・事例の再理解/提示事例の再検討（計120分程度）			
3	人的資源管理とは何か		予習：教科書63~68頁/予告企業事例を考える（計120分程度）			
			復習：学説・事例の再理解/提示事例の再検討（計120分程度）			
4	人的資源と経営戦略の深い関係		予習：教科書63~70頁/予告企業事例を考える（計120分程度）			
			復習：学説・事例の再理解/提示事例の再検討（計120分程度）			
5	人事管理と人的資源管理の違い		予習：配布資料熟読/予告企業事例を考える（計120分程度）			
			復習：学説・事例の再理解/提示事例の再検討（計120分程度）			
6	日本の人事管理体系解説		予習：教科書70~80頁/予告企業事例を考える（計120分程度）			
			復習：学説・事例の再理解/提示事例の再検討（計120分程度）			
7	アメリカの人的資源管理解説		予習：教科書78~84頁/予告企業事例を考える（計120分程度）			
			復習：学説・事例の再理解/提示事例の再検討（計120分程度）			
8	年功序列崩壊のウソ		予習：教科書80~90頁/予告企業事例を考える（計120分程度）			
			復習：学説・事例の再理解/提示事例の再検討（計120分程度）			
9	職能資格制度とは何か		予習：配布資料を熟読 / 予告企業事例を考える（計120分程度）			
			復習：学説・事例の再理解/提示事例の再検討（計120分程度）			
10	職能給と職務給		予習：配布資料を熟読 / 予告企業事例を考える（計120分程度）			
			復習：学説・事例の再理解/提示事例の再検討（計120分程度）			
11	成果給とは何か		予習：教科書80~82頁/予告企業事例を考える（計120分程度）			
			復習：学説・事例の再理解/提示事例の再検討（計120分程度）			
12	コンピテンシーとは何か		予習：教科書75~77頁/予告企業事例を考える（計120分程度）			
			復習：学説・事例の再理解/提示事例の再検討（計120分程度）			
13	教育訓練最前線		予習：配布資料熟読 / 予告企業事例を考える（計120分程度）			
			復習：学説・事例の再理解/提示事例の再検討（計120分程度）			
14	グローバルな人材獲得はどうやるか		予習：配布資料熟読 / 予告企業事例を考える（計120分程度）			
			復習：学説・事例の再理解/提示事例の再検討（計120分程度）			
15	総括と学習到達度の確認テスト		予習：教科書のこれまでの講義に対応するページを読み直すこと			
			復習：学説・事例の再理解/提示事例の再検討（計120分程度）			
評価方法	受講態度、確認テスト等の結果を総合考慮して成績を評価する。（受講態度30%・学習到達度の確認テスト70%）確認テストは概念を適切に理解して、自分の言葉で表現しているかを主にチェックする。					
評価基準	上記授業内容について、これをよく理解し、適切に表現できた者にはその程度に応じて「S」または「A」を与える。単元の内容についての理解や表現に何らかの不適切な点がある者はその程度に応じて「B」または「C」とし、単元の内容についての理解自体が不十分な者はその程度に応じて「D」または「E」とする。なお、確認テスト欠席など、評価不能の場合には「F」とする。					
その他	※G判：法【-】球【-】情【-】 / EF判：法【-】球【-】経【選択必修（β）】					